

●排水の種類・土壌・地下水・浸出水（2） （3-H-10-4～3-H-11-4）

本セッションでは土壌・地下水汚染と修復ならびに廃棄物埋立処分場浸出水の処理に関連した5件の発表が行われた。

3-H-10-4 では、農薬の土壌への吸着実験において農薬溶液と土壌の比率および pH の違いが土壌吸着特性に与える影響を検討している。

3-H-11-1 および 3-H-11-2 は、施肥により地下水の硝酸性窒素汚染が進行している茶畑の作土層下部に、徐放性有機物を混合した有機物埋設層（水平浄化壁）を設置し、土壌浸透水の脱窒効果および二次汚染の可能性について評価した一連の研究である。飽和透水係数の測定結果より、水平浄化壁の存在により作土層内に土壌浸透水が湛水するなどの影響で農作物に被害を与える可能性は低い水平浄化壁になっていると考えられた。また、この浄化壁により土壌浸透水中の硝酸性窒素が長期的に除去されたこと、水平浄化壁から供給された有機物は帯水層に到達する以前に消費され、有機物による二次汚染を引き起こす可能性は低いと考えられることが報告されている。また、水平浄化壁の設置により亜酸化窒素が多く排出される可能性は低いと判断された。

3-H-11-3 は、産業廃棄物最終処分場において土壌および廃プラスチックからクロロデン類が検出された調査結果を受け、土壌中のクロロデン類のプラスチックへの吸着について検討を行ったものである。模擬廃プラスチックとクロロデン類が混入している土壌の混合物を振とうし、プラスチックへの吸着に対する振とう時間の影響を検討している。

3-H-11-4 では、酸化チタン光触媒資材を用いた回転円板装置による廃棄物埋立処分場浸出水の処理実験の結果が報告された。

（高知大学教育研究部農学部門 藤原 拓）